

# JCMにおけるSDGsへの貢献 参考資料

公益財団法人 地球環境センター



# 目次

1. 省エネルギー
2. 再生可能エネルギー
3. エネルギーの有効利用
4. 廃棄物発電
5. 交通

# 省エネルギー

JCMにおけるSDGsへの貢献 参考資料

公益財団法人 地球環境センター





# 省エネプロジェクト SDGsへの貢献

従来よりも効率の良い機器を導入することで、電力消費量を抑え、GHG排出削減に貢献する事業を対象とする。

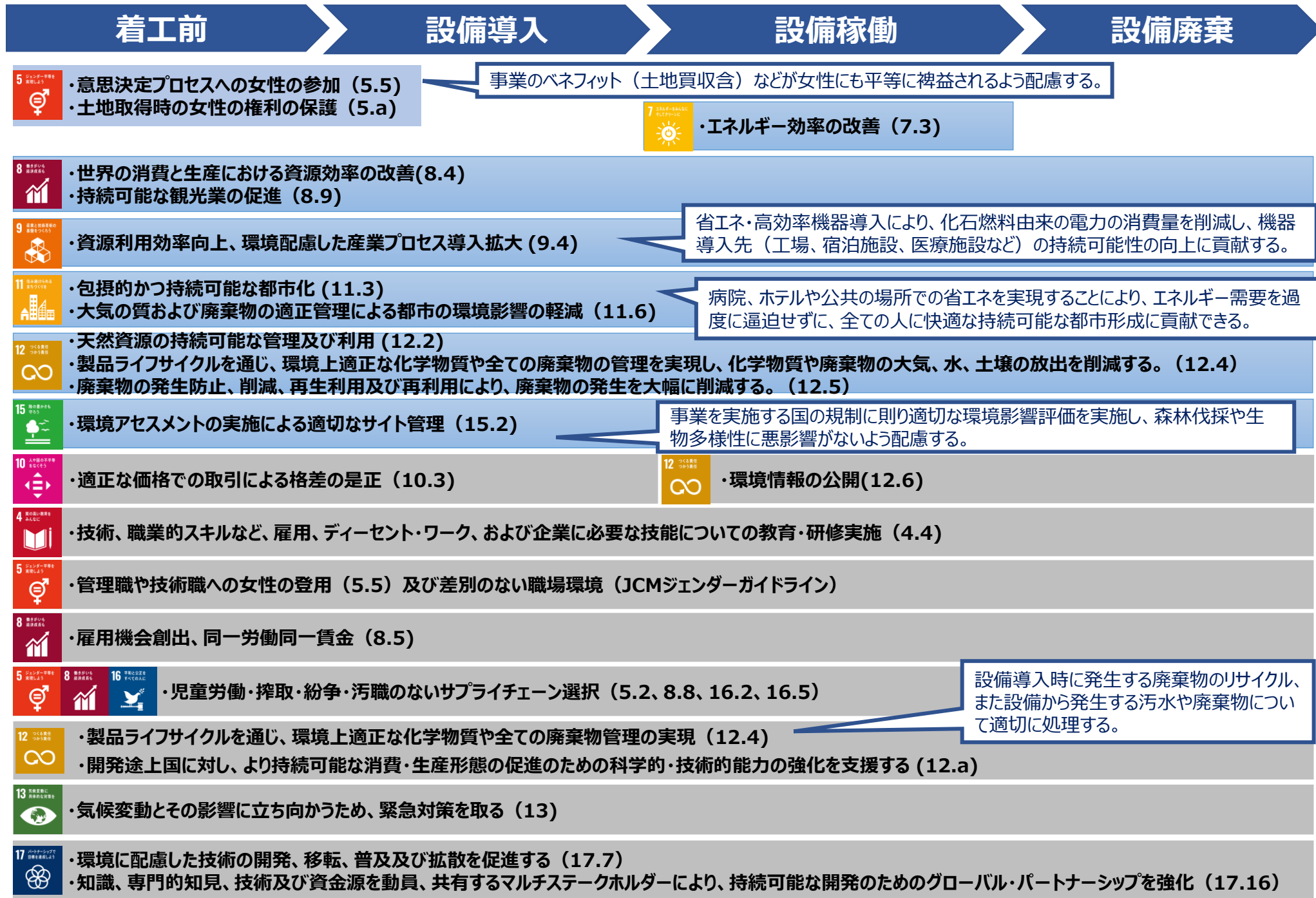
事業例は以下の通り。

-  省エネ冷房設備
-  省エネ暖房設備
-  省エネ医療機器
-  省エネ水処理施設
-  高効率ボイラー
-  その他の省エネおよび高効率機器

<表の見方>

-  本技術によって貢献できると思われるゴール
-  JCMプロジェクトによって貢献できると思われる共通のゴール

※ここに記載しているゴールは貢献できる可能性が相対的に高く、実現策があるか検討を勧めたいSDG項目の例であり、実施を強いるものではありません。



## ゴール4：質の高い教育をみんなに

- 4.4 技術的・職業的スキルなど、雇用、ディーセント・ワークに必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。

## ゴール5：ジェンダー平等を実現しよう

- 5.2 導入機器のサプライチェーンにおいて、女兒や女性の労働搾取がないことを確認する。
- 5.5 事業実施前に説明会を実施する場合、女性も平等に参加できるよう配慮する。また事業のベネフィットは男女平等に裨益するよう配慮する。
- 5.5 女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する。

## ゴール7：エネルギーをみんなに、そしてクリーンに

- 7.3 省エネまたは高効率機器の導入により、エネルギー効率の改善に貢献する。

## ゴール8：働きがいも、経済成長も

- 8.4 省エネまたは高効率機器の導入により、化石由来の電力の消費量を削減し、より持続可能な生産の推進に貢献する。（工場等に機器を導入する場合）
- 8.5 すべての男性および女性の、完全かつ生産的な雇用およびディーセント・ワーク、ならびに同一労働同一賃金を達成する。
- 8.8 サプライチェーンや事業現場で労働者の搾取がないよう配慮する。
- 8.9 省エネまたは高効率機器の導入により、（宿泊施設に機器を導入する場合）持続可能な観光業の推進に貢献する。

## ゴール9：生産と技術革新の基盤を作ろう

- 9.4 省エネまたは高効率機器の導入により、エネルギー効率の改善に貢献する。

## ゴール10：人や国の不平等をなくそう

- 10.3 製品や労働に対して対等な料金や賃金が支払われていることを確認する。

## ゴール11：住み続けられる街づくりを

- 11.3 包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、全ての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。
- 11.6 化石燃料由来の電力使用を削減する省エネ機器や、高い排出基準を満たす危機への転換や適切な廃棄物管理により、都市環境の大気汚染や廃棄物問題の緩和へ貢献する。

## ゴール12：つくる責任、使う責任

- 12.2 省エネまたは高効率機器の導入により、石油由来の電力消費量を削減し、天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用に貢献する。
- 12.4 製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌の放出を削減する。
- 12.5 廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。
- 12.6 CSRやSDGs報告書で、実施する事業について公表する。

### ゴール 13 : 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る

- GHG排出量削減を通じて、気候変動の緩和に貢献する。

### ゴール 15 : 陸の豊かさを守ろう

- 15.2 事業を実施する国の規制に則り適切な環境影響評価を実施し、森林伐採や生物多様性に悪影響がないよう配慮することで、森林減少を阻止する。

### ゴール 16 : 平和と公正をすべての人に

- 16.2 児童労働や搾取のないサプライチェーンを選択する。
- 16.5 賄賂などの支払いを通じて、汚職を助長しない。

### ゴール 17 : パートナーシップで目標を達成しよう

- 17.7 開発途上国に対し、環境に配慮した技術の開発、移転、普及及び拡散を促進する。
- 17.16 持続可能な開発目標の達成を支援すべく、知識、専門的知見、技術及び資金源を動員、共有するマルチステークホルダー・パートナーシップによって補完しつつ、持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップを強化する。

# 再生可能エネルギー

JCMにおけるSDGsへの貢献 参考資料

公益財団法人 地球環境センター



# 再エネプロジェクト SDGsへの貢献

再生可能エネルギーを、化石由来燃料の焼却により発電された電力と代替することでGHG排出削減に貢献する事業を対象とする。案件例は以下の通り。



太陽光発電



水力発電



風力発電



地熱発電



バイオマス・  
バイオガス発電

<表の見方>

■ 本技術によって貢献できると思われるゴール

■ JCMプロジェクトによって貢献できると思われる共通のゴール

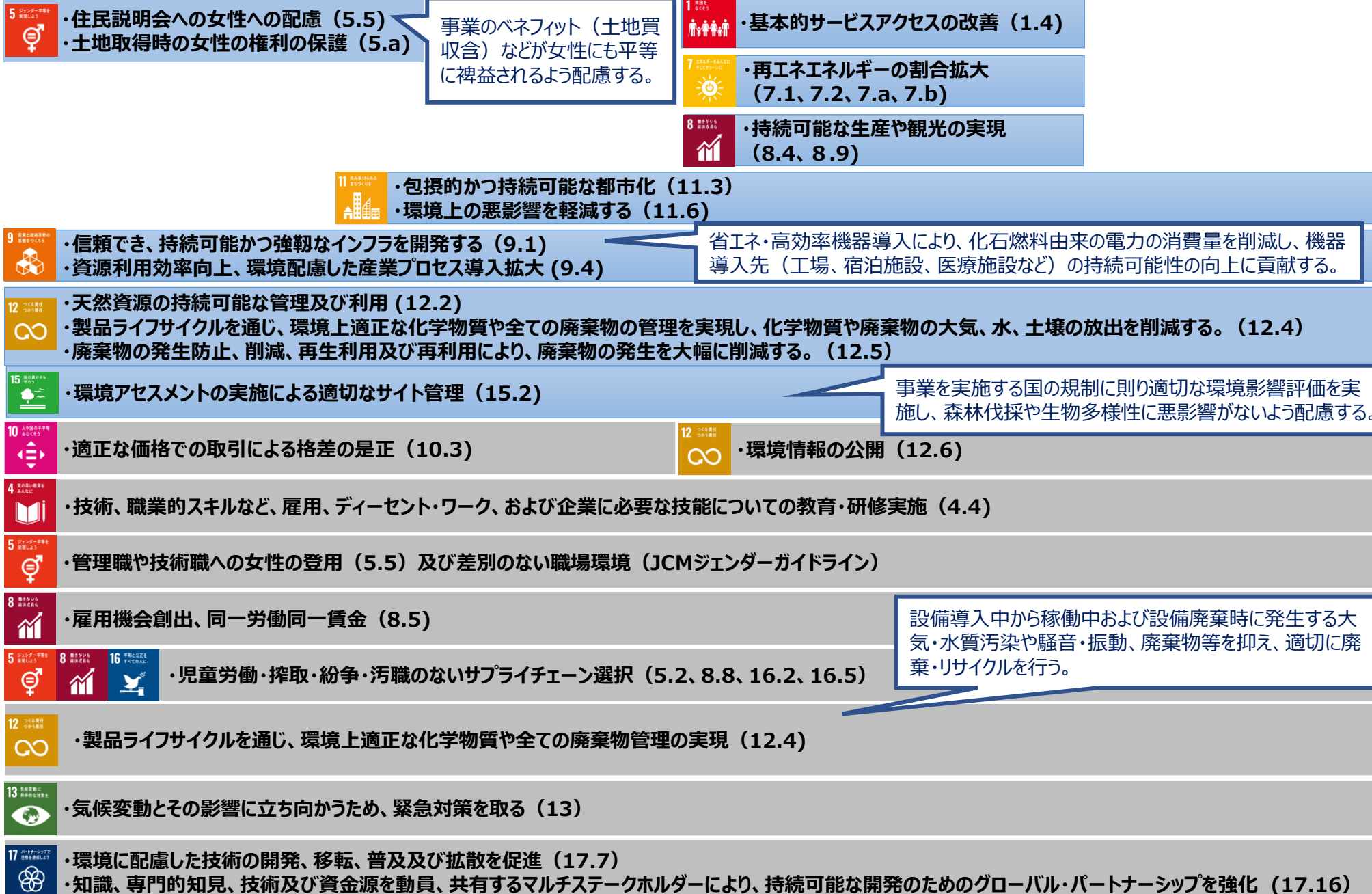
※ここに記載しているゴールは貢献できる可能性が相対的に高く、実現策があるか検討を勧めたいSDG項目の例であり、実施を強いるものではありません。

## 着工前

## 設備導入

## 設備稼働

## 設備廃棄





## ゴール 1 : 貧困をなくそう

1.4 基本的サービスへのアクセスを確保する。

## ゴール 4 : 質の高い教育をみんなに

4.4 技術的・職業的スキルなど、雇用、ディーセント・ワークに必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。

## ゴール 5 : ジェンダー平等を実現しよう

5.2 導入する機器のサプライチェーンにおいて、女兒や女性の労働搾取がないことを確認する。

5.5 事業実施前に説明会を実施する場合、女性も平等に参加できるよう配慮する。また事業のベネフィットは男女平等に裨益するよう配慮する。

5.5 女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する。

5.a 女性に対し、経済的資源に対する同等の権利、並びに各国法に従い、オーナーシップ及び土地その他の財産、天然資源に対するアクセスを確保する。

## ゴール 7 : エネルギーをみんなに、そしてクリーンに

7.1 再エネ設備導入により安価かつ信頼できる現代的エネルギーサービスへの普遍的アクセスを確保する。

7.2 エネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合の拡大に貢献する。

7.a クリーンエネルギーの研究および技術へのアクセスを促進するための国際協力を強化し、エネルギー関連インフラとクリーンエネルギー技術への投資を促進する。

7.b すべての人々に現代的で持続可能なエネルギーサービスを供給できるよう、インフラ拡大と技術向上を行う。

## ゴール 8 : 働きがいも、経済成長も

8.4 再エネ設備導入により、化石由来の電力の消費量を削減し、より持続可能な生産の推進に貢献する。（工場等に機器を導入する場合）

8.5 すべての男性および女性の、完全かつ生産的な雇用およびディーセント・ワーク、ならびに同一労働同一賃金を達成する。

8.8 サプライチェーンや事業現場で労働者の搾取がないよう配慮する。

8.9 再エネ設備導入により、持続可能な観光業の推進に貢献する。（宿泊施設に機器を導入する場合）

## ゴール 9 : 生産と技術革新の基盤を作ろう

9.1 信頼でき、持続可能かつ強靱（レジリエント）なインフラを開発する。

9.4 再エネを利用した環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。

## ゴール 10 : 人や国の不平等をなくそう

10.3 製品や労働に対して対等な料金や賃金が支払われていることを確認する。

## ゴール 11 : 住み続けられる街づくりを

11.3 包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、全ての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。

11.6 化石由来の電力使用を削減、もしくは電気機器への転換による君全体あるいは事業現場における大気汚染緩和へ貢献する。

## ゴール12：つくる責任、使う責任

12.2	再エネ機器の導入により、石油由来の電力消費量を削減し、天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用に貢献する。
12.4	製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌の放出を削減する。
12.6	CSRやSDGs報告書で、実施する事業について公表する。
12.a	開発途上国に対し、より持続可能な消費・生産形態の促進のための科学的・技術的能力の強化を支援する。

## ゴール13：気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る

—	GHG排出量削減を通じて、気候変動の緩和に貢献する。
---	----------------------------

## ゴール15：陸の豊かさを守ろう

15.2	事業を実施する国の規制に則り適切な環境影響評価を実施し、森林伐採や生物多様性に悪影響がないよう配慮する。
------	--

## ゴール16：平和と公正をすべての人に

16.2	児童労働や搾取のないサプライチェーンを選択する。
16.5	賄賂などの支払いを通じて、汚職を助長しない。

## ゴール17：パートナーシップで目標を達成しよう

17.7	開発途上国に対し、環境に配慮した技術の開発、移転、普及及び拡散を促進する。
17.16	持続可能な開発目標の達成を支援すべく、知識、専門的知見、技術及び資金源を動員、共有するマルチステークホルダー・パートナーシップによって補完しつつ、持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップを強化する。

# エネルギーの有効利用

JCMにおけるSDGsへの貢献 参考資料

公益財団法人 地球環境センター



# エネルギーの有効利用 プロジェクト SDGsへの貢献

熱エネルギーを工場の生産設備や発電のために使用した後に回収し再利用することで化石燃料由来の燃料消費を削減し、GHG排出量削減に貢献する事業を対象とする。事業例は以下の通り。



廃熱回収システム



ガスコジェネレーション

## <表の見方>

■ 本技術によって貢献できると思われるゴール

■ JCMプロジェクトによって貢献できると思われる共通のゴール

※ここに記載しているゴールは貢献できる可能性が相対的に高く、実現策があるか検討を勧めたいSDG項目の例であり、実施を強いるものではありません。

## 着工前

## 設備導入

## 設備稼働

## 設備廃棄



・環境上の悪影響を軽減する (11.6)



・安価かつ信頼できる現代的エネルギーサービスへの普遍的アクセスを確保する (7.1)  
・世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる (7.3)

廃熱回収システムやコージェネレーションシステムが、工場など都市部に設置された場合、太陽光発電や風力発電といった設備と異なり、災害に強いエネルギー供給システムが実現できる。また、エネルギー配电网コストも削減される。



・信頼でき、持続可能かつ強靱なインフラを開発する (9.1)  
・資源利用効率向上、環境配慮産業プロセス導入拡大 (9.4)

エネルギーの有効活用により、持続可能な産業の促進へ貢献し、化石燃料由来の燃料の消費量を削減する。



・天然資源の持続可能な管理及び利用 (12.2)  
・開発途上国に対し、より持続可能な消費・生産形態の促進のための科学的・技術的能力の強化を支援する。(12.a)



・環境アセスメントの実施による適切なサイト管理 (15.2)

事業を実施する国の規制に則り適切な環境影響評価を実施し、森林伐採や生物多様性に悪影響がないよう配慮する。



・適正な価格での取引による格差の是正 (10.3)



・環境情報の公開 (12.6)



・技術、職業的スキルなど、雇用、ディーセント・ワーク、および企業に必要な技能についての教育・研修実施 (4.4)



・管理職や技術職への女性の登用 (5.5) 及び差別のない職場環境 (JCMジェンダーガイドライン)



・雇用機会創出、同一労働同一賃金 (8.5)

設備導入時に発生する廃棄物のリサイクル、また設備から発生する污水や廃棄物について適切に処理する。



・児童労働・搾取・紛争・汚職のないサプライチェーン選択 (5.2、8.8、16.2、16.5)



・製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物管理の実現 (12.4)



・気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る (13)



・環境に配慮した技術の開発、移転、普及及び拡散を促進する (17.7)

・知識、専門的知見、技術及び資金源を動員、共有するマルチステークホルダーにより、持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップを強化 (17.16)

## ゴール4：質の高い教育をみんなに

- 4.4 技術的・職業的スキルなど、雇用、ディーセント・ワークに必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。

## ゴール5：ジェンダー平等を実現しよう

- 5.2 導入機器のサプライチェーンにおいて、女兒や女性の労働搾取がないことを確認する。
- 5.5 事業実施前に説明会を実施する場合、女性も平等に参加できるよう配慮する。また事業のベネフィットは男女平等に裨益するよう配慮する。
- 5.5 女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する。

## ゴール7：エネルギーをみんなに、そしてクリーンに

- 7.1 安価かつ信頼できる現代的エネルギーサービスへの普遍的アクセスを確保する。
- 7.3 エネルギーの有効活用により、持続可能な産業の促進へ貢献し、エネルギー効率を改善する。

## ゴール8：働きがいも、経済成長も

- 8.5 すべての男性および女性の、完全かつ生産的な雇用およびディーセント・ワーク、ならびに同一労働同一賃金を達成する。
- 8.8 サプライチェーンや事業現場で労働者の搾取がないよう配慮する。

## ゴール9：生産と技術革新の基盤を作ろう

- 9.1 信頼でき、持続可能かつ強靱（レジリエント）なインフラを開発する。
- 9.4 廃熱回収システムやコージェネレーションシステムにより、資源利用効率を向上させ、環境配慮した産業プロセスの導入を拡大する。

## ゴール10：人や国の不平等をなくそう

- 10.3 製品や労働に対して対等な料金や賃金が支払われていることを確認する。

## ゴール11：住み続けられるまちづくりを

- 11.6 大気の水質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する。

## ゴール12：つくる責任つかう責任

- 12.2 天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する。
- 12.4 製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌の放出を削減する。
- 12.6 CSRやSDGs報告書で、実施する事業について公表する。
- 12.a 開発途上国に対し、より持続可能な消費・生産形態の促進のための科学的・技術的能力の強化を支援する。

### ゴール 13 : 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る

- － GHG排出量削減を通じて、気候変動の緩和に貢献する。

### ゴール 15 : 陸の豊かさを守ろう

- 15.2 事業を実施する国の規制に則り適切な環境影響評価を実施し、森林伐採や生物多様性に悪影響がないよう配慮する。

### ゴール 16 : 平和と公正をすべての人に

- 16.2 児童労働や搾取のないサプライチェーンを選択する。
- 16.5 賄賂などの支払いを通じて、汚職を助長しない。

### ゴール 17 : パートナースhipで目標を達成しよう

- 17.7 開発途上国に対し、環境に配慮した技術の開発、移転、普及及び拡散を促進する。
- 17.16 持続可能な開発目標の達成を支援すべく、知識、専門的知見、技術及び資金源を動員、共有するマルチステークホルダー・パートナーシップによって補完しつつ、持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップを強化する。

# 廃棄物発電

JCMにおけるSDGsへの貢献 参考資料

公益財団法人 地球環境センター



# 廃棄物プロジェクト SDGsへの貢献

廃棄物の焼却処理の際に発生する熱を利用し発電を行うことで、埋立処分場でのメタン発生抑制、化石燃料由来の電力の代替により、GHG排出削減に貢献する事業を対象とする。事業例は以下の通り。

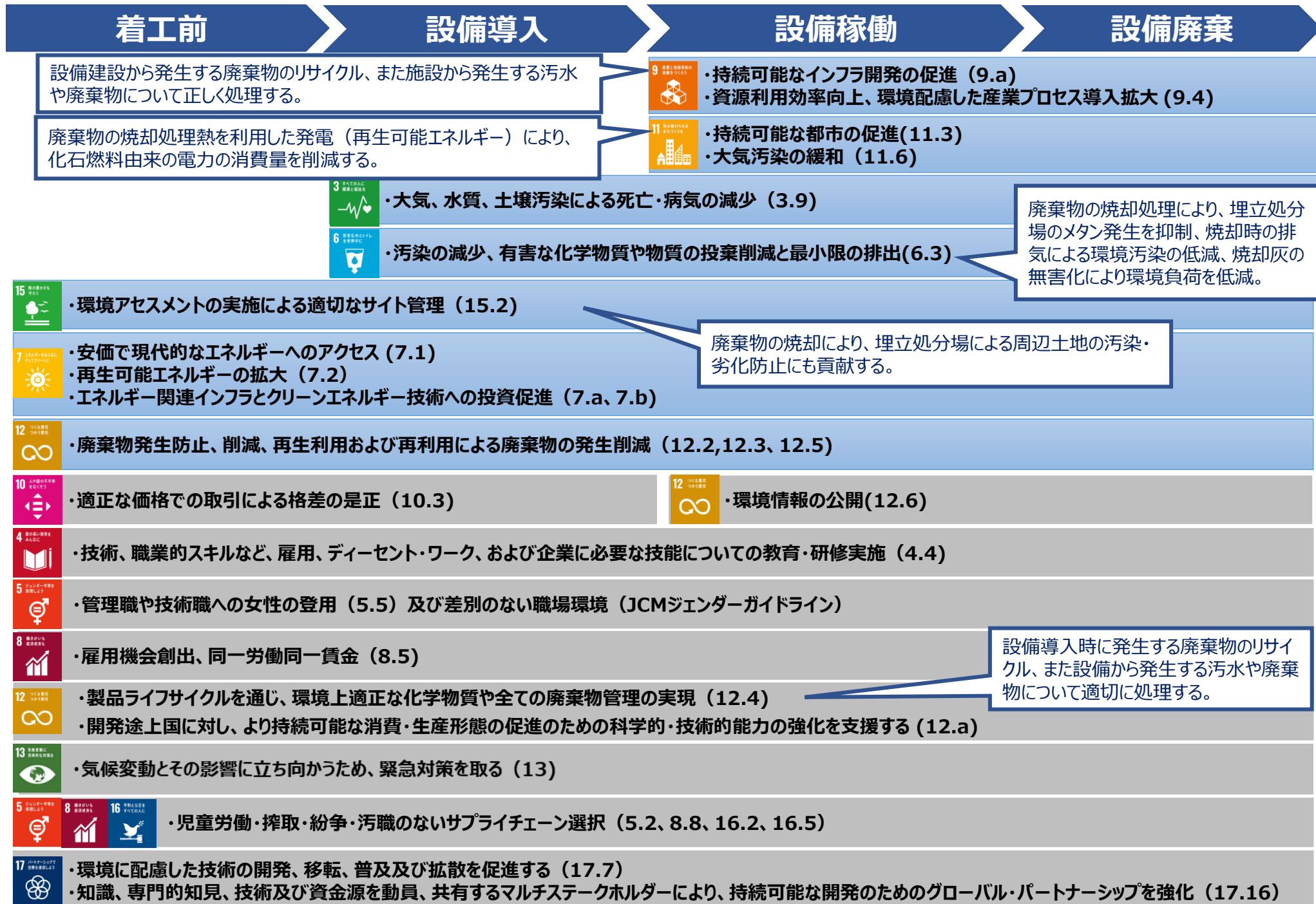


廃棄物発電

## <表の見方>

- 本技術によって貢献できると思われるゴール
- JCMプロジェクトによって貢献できると思われる共通のゴール

※ここに記載しているゴールは貢献できる可能性が相対的に高く、実現策があるか検討を勧めたいSDG項目の例であり、実施を強いるものではありません。





### ゴール3：全ての人に健康と福祉を

- 3.9 適切な廃棄物処理により、有害化学物質、ならびに大気、水質および土壌の汚染による死亡および病気の件数を大幅に減少させる。

### ゴール4：質の高い教育をみんなに

- 4.4 技術的・職業的スキルなど、雇用、ディーセント・ワークに必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。

### ゴール5：ジェンダー平等を実現しよう

- 5.2 導入機器のサプライチェーンにおいて、女兒や女性の労働搾取がないことを確認する。
- 5.5 事業実施前に説明会を実施する場合、女性も平等に参加できるよう配慮する。また事業のベネフィットは男女平等に裨益するよう配慮する。
- 5.5 女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する。

### ゴール6：安全な水とトイレを世界中に

- 6.3 適切な廃棄物処理を通じ、汚染の減少、有害な化学物質や物質の投棄削減と最小限の排出、未処理の下水の割合半減、およびリサイクルと安全な再利用を世界全体で大幅に増加させることにより、水質を改善する。

### ゴール7：エネルギーをみんなに、そしてクリーンに

- 7.1 廃棄物発電により安価かつ信頼できる現代的エネルギーサービスへの普遍的アクセスを確保する。
- 7.2 エネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合の拡大に貢献する。
- 7.a クリーンエネルギーの研究および技術へのアクセスを促進するための国際協力を強化し、エネルギー関連インフラとクリーンエネルギー技術への投資を促進する。
- 7.b すべての人々に現代的で持続可能なエネルギーサービスを供給できるよう、インフラ拡大と技術向上を行う。

### ゴール8：働きがいも、経済成長も

- 8.5 事業所における男性および女性の、完全かつ生産的な雇用およびディーセント・ワーク、ならびに同一労働同一賃金を達成する。
- 8.8 サプライチェーンや事業現場で労働者の搾取がないよう配慮する。

### ゴール9：生産と技術革新の基盤を作ろう

- 9.4 廃棄物を利用したクリーン技術および環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。
- 9.a 金融・テクノロジー・技術的支援の強化を通じて、開発途上国における持続可能かつレジリエントなインフラ開発を促進させる。

### ゴール10：人や国の不平等をなくそう

- 10.3 製品や労働に対して対等な料金や賃金が支払われていることを確認する。

## ゴール 1 1 : 住み続けられるまちづくりを

11.3	包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、住民参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。
11.6	大気の水質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する。

## ゴール 1 2 : つくる責任つかう責任

12.2	廃棄物発電施設導入により、石油由来の電力消費量を削減し、天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用に貢献する。
12.3	小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける廃棄物を減少させる。
12.4	製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌の放出を削減する。
12.5	廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。
12.6	CSRやSDGs報告書で、実施する事業について公表する。
12.a	開発途上国に対し、より持続可能な消費・生産形態の促進のための科学的・技術的能力の強化を支援する。

## ゴール 1 3 : 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る

—	GHG排出量削減を通じて、気候変動の緩和に貢献する。
---	----------------------------

## ゴール 1 5 : 陸の豊かさも守ろう

15.2	事業を実施する国の規制に則り適切な環境影響評価を実施し、森林伐採や生物多様性に悪影響がないよう配慮する。
------	--

## ゴール 1 6 : 平和と公正をすべての人に

16.2	児童労働や搾取のないサプライチェーンを選択する。
16.5	賄賂などの支払いを通じて、汚職を助長しない。

## ゴール 1 7 : パートナーシップで目標を達成しよう

17.7	開発途上国に対し、環境に配慮した技術の開発、移転、普及及び拡散を促進する。
17.16	持続可能な開発目標の達成を支援すべく、知識、専門的知見、技術及び資金源を動員、共有するマルチステークホルダー・パートナーシップによって補完しつつ、持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップを強化する。

# 交通


JCMにおけるSDGsへの貢献 参考資料

公益財団法人 地球環境センター




# 交通プロジェクト SDGsへの貢献


デジタルタコグラフ搭載による車両のエネルギー効率化や、車両の燃料転換、鮮度保持機能付コンテナの導入等により、交通セクターにおけるGHG排出量削減に貢献する事業を対象とする。事業例は以下の通り。


 エコドライブ

 燃料転換

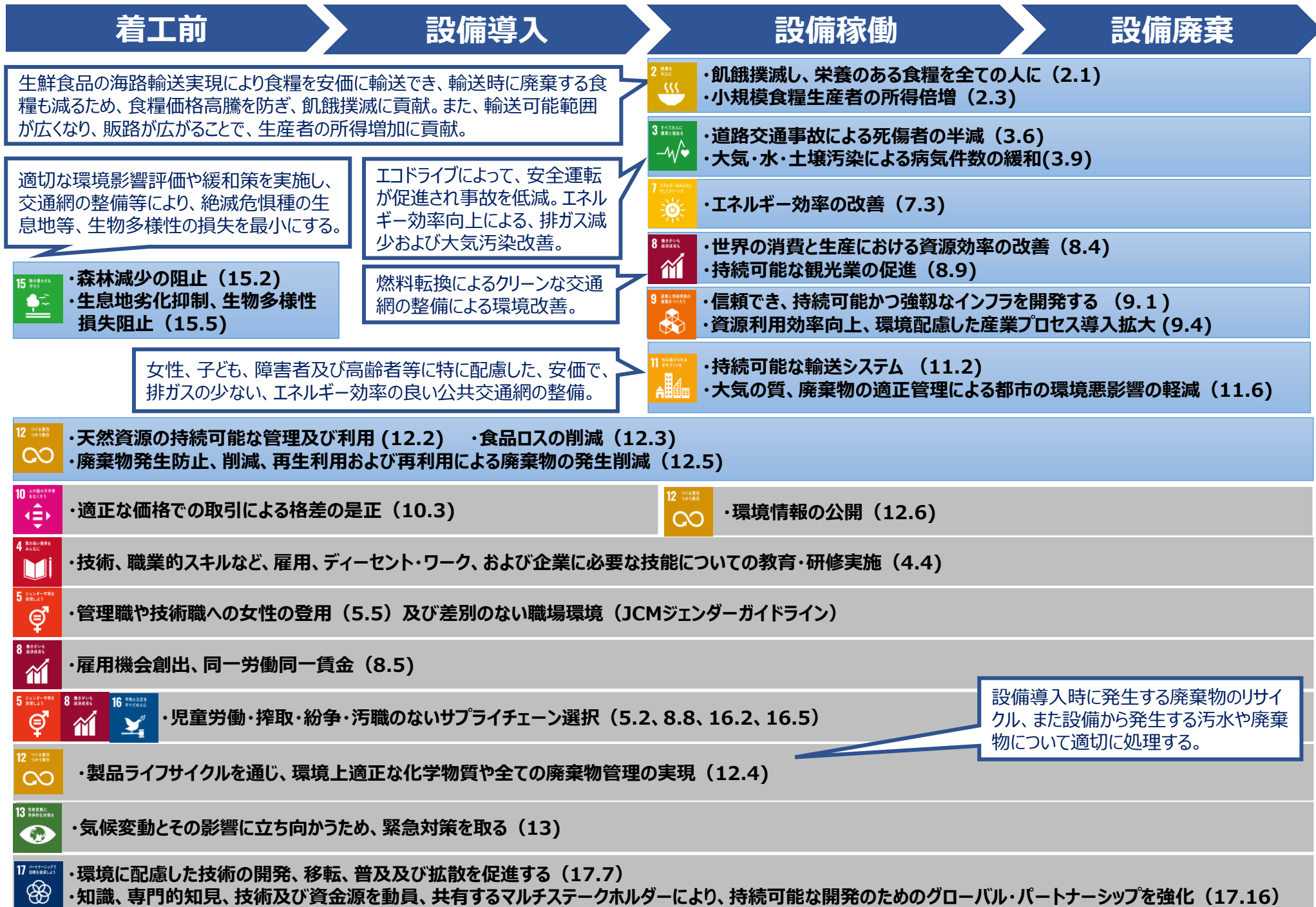
 モーダルシフト

<表の見方>

 本技術によって貢献できると思われるゴール

 JCMプロジェクトによって貢献できると思われる共通のゴール

※ここに記載しているゴールは貢献できる可能性が相対的に高く、実現策があるか検討を勧めたいSDG項目の例であり、実施を強いるものではありません。



## ゴール2：飢餓をゼロに

- |     |   |
|-----|---|
| 2.1 | 輸送効率向上により、廃棄される食糧を減少させ、また、従来輸送できなかった食糧を市場に出せるようになり、生産者の所得を向上させて、また、食糧の高騰を抑制し、飢餓を撲滅する。 |
| 2.3 | 牧畜民及び漁業者をはじめとする小規模食料生産者の農業生産性及び所得を倍増させる。  |

## ゴール3：全ての人に健康と福祉を

- |     |  |
|-----|--|
| 3.6 | モーダルシフトにより、道路交通量を低減させ、またエコドライブにより運転に対する意識を高め、道路交通事故による死傷者を半減させる。 |
| 3.9 | 有害化学物質、ならびに待機、水質および土壌の汚染による死亡および病気の件数を大幅に減少させる。                  |

## ゴール4：質の高い教育をみんなに

- |     |  |
|-----|--|
| 4.4 | 技術的・職業的スキルなど、雇用、ディーセント・ワークに必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。 |
|-----|--|

## ゴール5：ジェンダー平等を実現しよう

- |     |   |
|-----|---|
| 5.2 | 導入する機器のサプライチェーンにおいて、女兒や女性の労働搾取がないことを確認する。                       |
| 5.5 | 事業実施前に説明会を実施する場合、女性も平等に参加できるよう配慮する。また事業のベネフィットは男女平等に裨益するよう配慮する。 |
| 5.5 | 女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する。                                      |

## ゴール7：エネルギーをみんなに、そしてクリーンに

- |     |                    |
|-----|--------------------|
| 7.3 | エネルギー効率の改善率を倍増させる。 |
|-----|--------------------|

## ゴール8：働きがいも、経済成長も

- |     |   |
|-----|---|
| 8.4 | 世界の消費と生産における資源効率を漸進的に改善させ、経済成長と環境悪化の分断を図る。              |
| 8.5 | すべての男性および女性の、完全かつ生産的な雇用およびディーセント・ワーク、ならびに同一労働同一賃金を達成する。 |
| 8.8 | サプライチェーンや事業現場で労働者の搾取がないよう配慮する。                          |
| 8.9 | 持続可能な交通網の整備による、持続可能な観光業の促進。                             |

## ゴール9：生産と技術革新の基盤を作ろう

- |     |   |
|-----|---|
| 9.1 | 持続可能な交通・輸送網の整備により、信頼でき、持続可能かつ強靱（レジリエント）なインフラを開発する。      |
| 9.4 | 交通・輸送における資源利用効率を改善し、付加価値の単位あたりCO <sub>2</sub> 排出量を削減する。 |

## ゴール10：人や国の不平等をなくそう

- |      |                                   |
|------|-----------------------------------|
| 10.3 | 製品や労働に対して対等な料金や賃金が支払われていることを確認する。 |
|------|-----------------------------------|

## ゴール11：住み続けられる街づくりを

- |      |   |
|------|---|
| 11.2 | 公共交通機関の拡大などを通じた交通の安全性改善により、全ての人々に持続可能な輸送システムへのアクセスを提供拡大を推進する。 |
| 11.6 | 電力や天然ガスへの燃料転換により、大気汚染緩和へ貢献する。                                 |

## ゴール 1 2 : つくる責任 かう責任

12.2	燃料転換やエコドライブによる天然資源の持続可能な管理及び利用に貢献する。
12.3	輸送効率向上により、輸送時に廃棄される食品ロスを少なくする。
12.4	製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌の放出を削減する。
12.5	廃棄物発生防止、削減、再生利用および再利用による廃棄物の発生削減。
12.6	CSRやSDGs報告書で、実施する事業について公表する。
12.a	開発途上国に対し、より持続可能な消費・生産形態の促進のための科学的・技術的能力の強化を支援する。

## ゴール 1 3 : 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る

—	GHG排出量削減を通じて、気候変動の緩和に貢献する。
---	----------------------------

## ゴール 1 5 : 陸の豊かさを守ろう

15.2	事業を実施する国の規制や、国際基準に則り適切な環境影響評価および緩和策を実施し、事業サイトの選定には、森林伐採や生物多様性に悪影響がないよう配慮することで、森林減少を阻止する。
15.5	適切な環境影響評価や緩和策を実施し、交通網の整備等のプロジェクトにより、絶滅危惧種の生息地等に影響を与えない配慮することにより、生物多様性の損失を最小にする。

## ゴール 1 6 : 平和と公正をすべての人に

16.2	児童労働や搾取のないサプライチェーンを選択する。
16.5	賄賂などの支払いを通じて、汚職を助長しない。

## ゴール 1 7 : パートナーシップで目標を達成しよう

17.7	開発途上国に対し、環境に配慮した技術の開発、移転、普及及び拡散を促進する。
17.16	持続可能な開発目標の達成を支援すべく、知識、専門的知見、技術及び資金源を動員、共有するマルチステークホルダー・パートナーシップによって補完しつつ、持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップを強化する。